



未来につなげよう
あすなろう鉄道

育てよう! 特集／四日市市の公共交通

市民の
暮らしを
守る

公共交通



通勤・通学や通院、買い物など、私たちの日常生活に欠かすことができない公共交通。公共交通は、安全で安心して利用できる身近な交通手段として、重要な役割を担っています。私たちに必要な公共交通について考えてみましょう。



知っていますか?

四日市市の公共交通

市内の鉄道には、近鉄線（名古屋線、湯の山線、内部・八王子線）、三岐鉄道三岐線、JR関西本線、伊勢鉄道の7路線34駅と、バスについては、三重交通バス、三岐鉄道バス、自主運行バス、NPO法人が運行しているバスなど、計25路線があります。

市内の公共交通は充実しているように見えますが、利用者離れや人口減少が今後も懸念されます。

今、自分で自動車を運転したり、誰かに乗せてもらったりしている人も、いつまでもその状況が続くとは限りません。

■四日市市の公共交通網図





公共交通の利用者は10年で約9%減

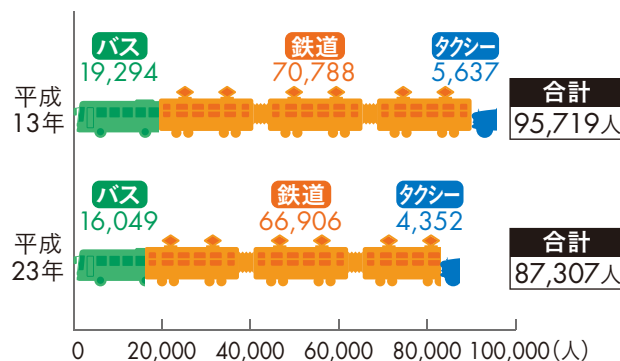
公共交通の利用者は、自動車の普及が進むにつれ、減少傾向にあり、10年で約9%減少しました。その中でも電車よりバスの利用者の減少が著しく、10年で約17%も減少しました。

利用者の減少により、バス路線の運行継続が難しくなり、路線が廃止され、交通空白地帯になるなどの問題が生じています。そのため本市では、平成12年頃から市が費用を負担して、バス事業者に運行を委託する「自主運行バス」を3路線で走らせています。

現在も公共交通離れは進んでいます。このまま乗らなければ、赤字路線が増え続け、いずれ公共交通はもっと衰退していく可能性が出てきます。

■公共交通（バス+鉄道+タクシー）の利用者数

（資料：三重県「三重県統計書」データ、事業者ヒアリングデータを基に作成）



なぜ公共交通が必要なのか？

公共交通であっても、利用客の少ない路線は、廃止されてしまうのが現実です。しかし、自動車を運転していない高齢者や免許を持たない通学者などの移動を支えるために、公共交通は不可欠です。公共交通を守っていくことは、交通弱者の移動手段の確保、市民の生活を守ることにつながります。

公共交通のメリット

環境に優しい！

1

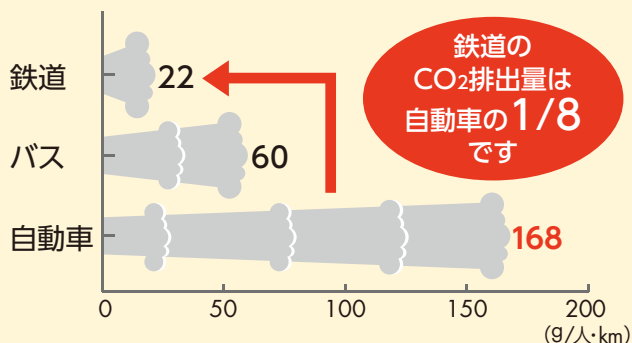
一人を1Km運ぶと仮定して、「電車」と「バス」と「自動車」の二酸化炭素排出量を比較してみると、

- 「電車」は「自動車」の約1/8
- 「バス」は「自動車」の約1/3 で済みます。

二酸化炭素の排出を減らすために自動車をエコカーに変えることも一つの方法ですが、電車やバスなどの公共交通を利用することは、身近な環境対策の一つです。

■一人を1km運ぶのに排出するCO₂

〔資料：国土交通省ホームページ「運輸部門における二酸化炭素排出量」(2012年度)〕



公共交通のメリット

渋滞の緩和

2

通勤時間帯などに、マイカーの利用者が減ると道路の交通量が減り、通行がスムーズになります。



公共交通のメリット

安全で快適に移動

3

公共交通は、運転手(士)の運転で移動できるため、乗車中に読書をしたり、景色を眺めたりしながら移動できます。

また、鉄道での死亡事故は、自動車の約1/400の確率であり、安全に移動できます。



公共交通を みんなで守るために

～路線の存続・維持に向けた取り組み～

バス

駅前広場の整備

利用しやすい公共交通のための
環境整備を目指して

駅から離れたところに住む人たちにも、電車を利用してもらいやすくなるよう、駅前広場の整備による利用環境の改善を図ります。

具体的には、西日野駅や内部駅の整備、近鉄四日市駅やJR四日市駅の駅前広場の再整備を検討しています。



近鉄・三岐富田駅の駅前広場

にぎわいの 創出

公共交通を利用する目的づくり

目的地へ行くときに、公共交通を移動手段として利用してもらうため、市民の皆さんと協力してイベントなどを企画しています。シティロードレース、大四日市まつり、歩行者天国、エキサイトバザール、花火大会などの開催時には、ぜひ公共交通をご利用ください。



歩行者天国

水沢・桜地区でバスの運行実験



既存の公共交通網を補完する市民主体の取り組みとして、昨年11月20日から12月17日まで、宮妻口から桜駅の区間で、バスの運行実験を行いました。通勤・通学をターゲットに、6時20分を始発としてマイクロバスを運行しました。

今後、路線化に向けた課題解決に取り組みます。



バスの乗り方 教室の開催

公共交通の果たす役割を知る

バスに慣れ親しんでもらい、バスの良さを実感してもらうとともに、環境に優しいバスについて理解を深めてもらうため、「乗り方教室」や「利用促進PR活動」を三重運輸支局・(公社)三重県バス協会・三重交通(株)と市が協働で行っています。昨年、川島地区で「バスの乗り方教室」を開催した時は、多くの親子の参加がありました。



ノーマイカーデー の推進

渋滞の緩和と環境対策のために

市では、月1回、通勤方法を公共交通機関の利用に変更したり、1台の自動車に乗り合わせて出勤するようにしたりと、ノーマイカー通勤を推進しています。

また、霞ヶ浦地区の企業などで構成する霞ヶ浦地区環境行動推進協議会(通称KIEP'S)でも、月1回、通勤方法を公共交通機関や自転車など、環境負荷の低い交通手段に変更するエコ通勤デーを実施しています。



コミュニティー バスの運営

交通空白地帯を埋めるために

バス路線が廃止されたり、既存の公共交通が不便だったりする地域の移動手段を確保するために、コミュニティーバスを運営することも考えられます。

民間の有志でNPO法人を設立し、コミュニティーバス「生活バスよっかいち」を運行している事例もあります。

また、不採算で廃止となった山城富洲原線、神前高角線、磯津高花平線の3路線では、市が経費を負担して「自主運行バス」を運行しています。



水沢地区まちづくり
構想策定委員会
こがみ
小粥 吉美さん

水沢地区の住民は自動車で移動する人が圧倒的に多く、バスの本数減少もやむを得ないと受け止めていました。運転免許がない高校生は大変不便な状況でした。そこで、通学の支援を主な目的として、今回の社会実験を考えました。

地区の皆さんには組回覧やポスター掲示、小・中学校を通じてのチラシ配布などで周知を図り、四日市西高等学校や近鉄さんにも直接お声掛けしました。結果として、社会実験がちょうどみじき祭りの時期だったこともあり、地区内の住民だけでなく、地区外の人たちにもたくさん利用していただき、好評でした。今後も、水沢地区の貴重な公共交通であるバスを守っていくために、利用促進と実験路線の本格運行を目指して、取り組んでいきたいと思っています。

通学は普段、両親に自動車での送迎を頼んでいたけど、このバスがあれば自分で行けるので良かったです。土日いろいろな人が乗っていたので、社会実験で終わらず、本当にバスが走ってくれたら、高校生や年配の人にも本当に助かると思います。



四日市西高等学校
鎌田 有美子さん

内部・八王子線は 公有民営方式で 存続します



近鉄内部・八王子線沿線には、笹川団地などの大規模住宅団地、四日市南高等学校、四日市四郷高等学校、海星中学・高等学校、四日市工業高等学校、西日野にじ学園など多くの学校や、医療機関があり、年間約360万人の利用があります。

数年前、近畿日本鉄道(株)から、内部・八王子線の今後のあり方を検討したいとの申し出があり、市と近畿日本鉄道(株)とで、内部・八王子線の存続問題について何度も話し合いを行いました。

市民にとってかけがえのない交通手段

市としては、この鉄道が、

- 高齢者や学生などの交通弱者にとって、日常生活に欠かせない移動手段であること
- 道路の交通渋滞を招かない交通手段であること
- 公共交通で走る電車の中では最も線路幅の狭い特殊狭軌線“ナローゲージ”(762mm)の鉄道として、全国でも3路線しかない貴重な路線であり、観光資源としても活用可能なこと
- 大正元(1912)年に開業された歴史ある路線であること
- 環境にも優れた交通機関であること

- 「鉄道駅を中心としたまちづくり」を進める上で必要不可欠であること

などを踏まえ、本市にとってなくてはならない公益性の高い交通手段であると考え、近畿日本鉄道(株)と協議しました。その結果、市が鉄道施設や車両を所有し、近畿日本鉄道(株)と市が出資して設立する新会社が鉄道の運行を行う「公有民営方式」に転換することで、鉄道として存続させることに決めました。

四日市あすなろう鉄道(株)を設立し、運営

新会社名は**四日市あすなろう鉄道株式会社**。「明日に向かって(未来に向かって)」や「ナローゲージ」を意味しており、平成27年春からの運行を目指しています。

国などの補助金や近畿日本鉄道(株)からの拠出金、市の支出などで必要な経費を負担し、持続的な運営を行っていきます。

なお、運賃改訂で利用者の皆さんのご負担が増しますが、存続のため、ご協力をお願いします。

あすなろう鉄道を持続的に運営していくために、
皆さん、積極的に利用してください

自分たちで できることから始める



平成21年から夏と冬の年2回、四日市南高等学校・四日市四郷高等学校・西日野にじ学園の生徒さんたちが共同で、花いっぱい運動を行っています。昨年12月19日も24人の生徒さんと先生たちで、28個のプランターの設置やチューリップの球根植えなどが行われました。

西日野駅を利用している近隣の学校が協力し合うことは、とてもいいことだと思います。6年続けているこの活動が今後も続けば、もっと西日野駅がきれいになると思います。

これからも、全国に3つしかない貴重な線路の電車が地域の宝物だということを、みんなに伝えていきたいと思います。



四日市四郷高等学校
矢田百恵さん

みんなで育てる公共交通

公共交通は、これからのまちづくりにとって、とても重要な移動手段の一つです。その活用法によっては、地域に魅力や活力を生み出す起爆剤にもなります。

市内でも、公共交通を通して、いろいろな取り組みに着手している団体があります。

内部・八王子線を盛り上げる

誰でも安心して利用できる公共交通を将来の四日市市に残すために、公共交通のあり方や内部・八王子線についてのシンポジウム、駅の清掃・沿線ウォーキング、小古曽駅や日永駅での花植えの開催など、さまざまな活動に、多くの市民の皆さんが取り組まれています。

内部・八王子線は、現在1日約1万人が利用している大切な交通網です。私たちは2012年5月にNPO法人を設立し、内部・八王子線をはじめとする公共交通を盛り上げるための活動を行っています。

昨年3月には、市と協働で、駅周辺のごみ拾いの後、日永小学校でクイズを行う「内部・八王子線に乗ってウォーキング&クイズ大会」を実施しました。市民グループに地元の染色工場で染織した布でエコバッグを手作りしてもらうなど、沿線のみんなでイベントを作り上げました。

公共交通を盛り上げていくためには、市民と行政が協力して進めていくことや、PR時の四日市全体で統一されたイメージづくりが大事だと考えています。公共交通のファンを増やすために、私たちも積極的にアイデアを出していきたいと思っています。



NPO法人四日市の交通と街づくりを考える会
井村 昌広さん



日永で花と夢を育もう!
(大瀬古町 子供と地域の環を育む会)



近鉄内部線 ワイン列車
(洋風食堂モンヴェール、とろすばうつべ四日市店)



内部・八王子線に乗ってウォーキング&クイズ大会
(NPO法人四日市の交通と街づくりを考える会)

意識を変えて、行動に移そう

これからの公共交通を維持していくためには、公共交通を自分たちの手で守っていく雰囲気づくりが必要です。渋滞や環境、健康問題に配慮して、自動車に頼る生活から、自動車と公共交通を賢く使い分ける生活へと方向転換していきませんか。意識を変えて、行動に移していきましょう。

編集後記

コミュニティバスの取材時には、「このバス、本当に便利よ。みんなに伝えて」など、利用者の皆さんから声をかけていただきました。数十年後、自分が自動車を運転できなくなったときも公共交通が続いているよう、日ごろの生活を見直して、率先して公共交通のユーザーになろうと思います。(都市計画課 大原、広報広聴課 堀田)